



発行日：平成 29 年 7 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 34 回海部会 WG を開催しました！

6 月 24 日（日曜日）に第 34 回海部会 WG を開催しました。
今回の WG は、22 世紀奈佐の浜プロジェクト委員会主催の「藤前干潟エクスカージョン」に参加し、藤前干潟の清掃活動やごみ焼却場「南陽工場」の見学など“ごみ”を通じて環境を学ぶ 1 日でした。



日時：H29 年 6 月 24 日（土） 10:00～15:30
場所：藤前干潟および藤前会館
参加者：19 名（事務局含む）

◆主な活動内容

1：藤前干潟の清掃活動を行いました。



- 実行委員の代表から挨拶をかねて藤前干潟の説明があり、また担当者から作業内容と注意点の説明を受けた後、参加者全員で藤前干潟海岸沿いに行き、ごみ拾いを行いました。
- 当日は曇り空でしたが、蒸し暑さを感じる中、大人から子供まで渡された袋が一杯になるまで、ごみを拾い続けました。活動が始まる前までは見えなかった干潟も、ごみ拾いが終わるころには一面に広がっていました。



主催者代表の挨拶



ごみ拾い活動の開始



参加者の作業風景



ごみ拾い活動の成果

2：ごみ焼却場「南陽工場」を見学しました。



- 工場職員からごみピットやごみクレーン、焼却炉などの施設の役割について説明していただいた後、研修室では工場長から南陽工場でのごみ処理の流れについて講和をしていただきました
- 目の前に積まれたごみの量を見て、名古屋市から集まるごみの量の多さとそれを処理するために多くの労力が費やされていることを学びました。



工場職員の説明



焼却炉管理室の見学



工場長の講話



ごみ処理のビデオ学習

3：記念講演と報告会



午後からは藤前会館に移動し、記念講演と活動報告を視聴したのち、グループに分かれて、伊勢湾・三河湾への漂着ごみを100年後に“ゼロ”にするために、何をすべきか、何が大切かを話し合いました。

- 記念講演 「伊勢湾の漂着ごみの最新情報」：四日市大学 千葉賢教授
- 活動報告1「森の健康診断の10年とその後」：土岐川・庄内川源流の森委員会 村上誠治事務局長
- 活動報告2「葦から“ZOO”」（ヨシ布の製品化の取組み）：名古屋市立名古屋商業高校商品開発研究班
- 活動報告3「藤前干潟のヨシ原調査の報告」



4：話し合い



昼食の時間を利用して、今年度の活動方針や矢作川感謝祭について話し合いを行いました。

1. 今年度の活動方針および矢作川感謝祭について

- 今年度の海部会の活動は、なるべく山部会や川部会と合同、連携して開催していきたいと考えている。また、できるだけ現場に赴き、海だけでなく山や川の人たちと意見交換をしていきたい。（青木）
- 矢作川感謝祭については、積極的に参加する方向でよいか？（青木）
- 昨年度、奥矢作森林フェスティバルでは東幡豆漁協の石川組合長が主体となってカニや貝など海の生き物を展示するブースを設置してもらい、大変好評であった。今回も同ような内容で海の生き物の展示を石川組合長にお願いしてはどうか。（高橋）
- 次回の海部会WGに石川組合長に参加していただき、内容について意見交換ができるとよい。（青木）
- ごみ問題などの海の環境の課題をアピールするのもよい。（溝口）
- 会場に矢作ダムのお砂を持って行って、海としてはこの“砂”が欲しいとアピールしたい。（井上）

2. 次回WGの話題について

- 東幡豆の造成干潟で実施している生物調査の結果を確認したいのと、できれば現地視察も行いたい。（青木）
- 高橋さんから鳥の話を知りたいという意見がある。（事務局）
- 東幡豆の干潟で鳥の話をやることで高橋さんと石川組合長の日程調整を事務局にお願いする。（青木）

■ふりかえり

- 今回のエクスカージョンには100名以上の市民が参加しており、愛知県内だけでなく三重県や岐阜県からの参加者もいて、伊勢湾・三河湾の恩恵を受ける地域の方が参加していることに意義のある活動だと感じました。
- 小学生や幼児など親子で参加されている方も多く、普段の生活の中で出されるごみについて家族で話し合うきっかけづくりになるなど、環境教育の場としての効果が高いと感じました。

今後のスケジュール（予定）

次回 海部会第35回WGは、8月に東幡豆漁協組合事務所で開催します。

2年前にダム砂を投入して造成した人工干潟の現状をみるほか、鳥の専門家：高橋さんから海の環境と鳥について話題提供をしていただきます。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 服部係長

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@iijnet.or.jp) までお送りください。

